

「海賊対処行動に対する感謝の集い」の開催について

当協会は、2025 年 11 月 26 日（水）、海運ビルにおいて「海賊対処行動に対する感謝の集い」を開催しました。当日は、防衛省、国土交通省、海上保安庁その他関係省庁および国会議員など、ソマリア沖・アデン湾での海賊対処行動にご尽力いただいている関係の皆さま総勢約 310 名にお集まりいただきました。

長澤仁志会長は、冒頭挨拶において、実際に護衛艦の支援を受けた船員から寄せられた「護衛艦の姿が見えるだけで大きな安心感を得ることができた」との声を紹介し、長年にわたる活動に対し深い感謝の意を表しました。さらに、「海賊対処行動および中東地域での情報収集活動」が 1 年間延長されたことについても改めて謝意を示すとともに、紅海など緊張の続く海域にも言及し、船舶の一層の航行安全確保に向け、引き続きのご支援をお願いしました。

来賓を代表して、金子恭之国土交通大臣、宮崎政久防衛副大臣、津島淳内閣府副大臣、大西洋平外務大臣政務官、福山守法務大臣政務官（代読）、松永浩二防衛省統合幕僚副長、坂巻健太海上保安庁次長、ジブチ共和国イブラヒム・ビレ・ドゥアレ駐日特命全権大使よりご挨拶をいただきました。

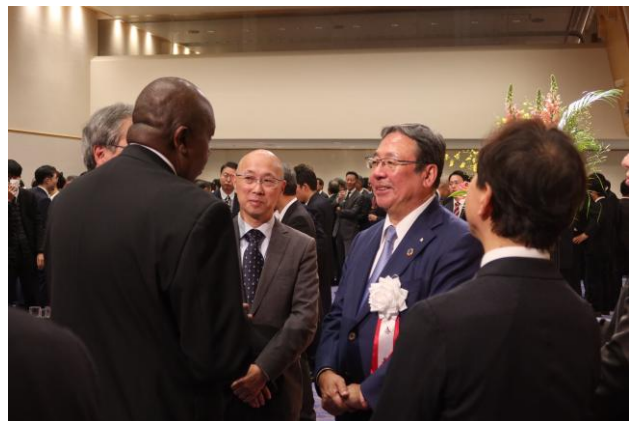
挨拶では、国土交通大臣をはじめ、複数の来賓より、現在は本対処行動により比較的海賊被害が沈静化したものの、根本原因である沿岸国の国内情勢が変化していないことや流動的な国際情勢に鑑み、今後も官公庁・関係国と協力して取り組んでいくことが確認された他、任務を遂行する自衛官、海上保安官への深い敬意と感謝の念が表されました。

また、ドゥアレ大使からは、献身的に任務に当たられている隊員への敬意と、日本より供与された巡視艇がジブチおよび周辺海域の安全に寄与していることへの感謝が示されるとともに、国際協力の観点からも、この活動が更に意義深いものとなっているとの言葉がありました。

続いて後藤茂之海事振興連盟会長の乾杯の発声により始まった歓談では、司会の 2025 年度ミス日本「海の日」高橋彩乃さんによる、海賊対処行動任務を終えた自衛官・海上保安官へのインタビューで現場での貴重な体験談が紹介されるなど、終始和やかな雰囲気のもと、感謝の思いを共有する場となりました。



長澤仁志当協会会長



歓談の様子



金子恭之国土交通大臣



宮崎政久防衛副大臣



津島淳内閣府副大臣



大西洋平外務大臣政務官



福山守法務大臣政務官の挨拶を代読する
村松秀樹法務省大臣官房政策審議官



松永浩二防衛省統合幕僚副長



坂巻健太海上保安庁次長



イブラヒム・ビレ・ドゥアレ
駐日特命全権大使



後藤茂之海事振興連盟会長による乾杯



会場の様子



インタビューの様子